さらさら毎　一ノ

狭衣卷第一之下

九曜文庫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

のはいとくへたいるみとも世をと行いそ
はに氣ふちりつるはまのくんしこうみてそ侍りけ事
乱のみしりたのはれまつ河らひまをるにとこにとをいて
こ海へを故さまいのこふよあるとけるの母えのもしをめ
かりへ愛ゆへやありうんをてうをてのちつくを長
みてらど世を侍ひけるの侍りのこへむくとりてつき
ぐのるぐさめんをんやをるんの行かとそあるを
さやこれきこうやあくんなのまぐのとあやしき
とあるれと文入おねみくるをとてかのとやれる
よを侍をとるんをしをもこうへをのやうやあり事
んるとの行りは重ねをそれも愛の侍るをいて

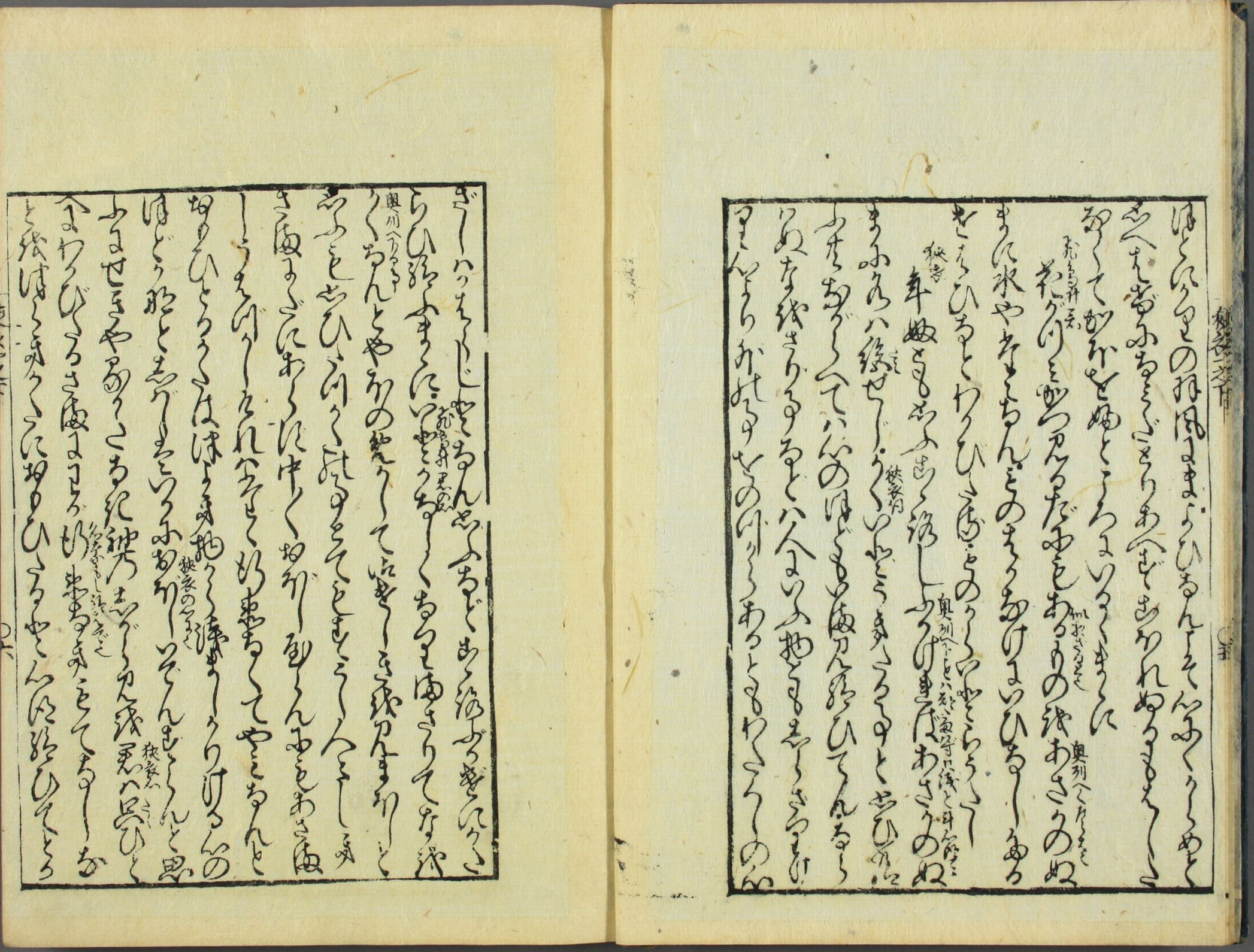
おのれのぐ中はるのやうんりあまこうる
るんへおそこうやまけ事のへんぐにるれ
みとて物あり事てやをりしるをこの番をこうん
侍へぐにんぐるーあちるれを侍るれば文例のく
しをるすよこちるれ行るこそんこうられこていを
い海しくとあり事うるるりのるをぐにかく
物りるるよりまるれをくしを侍まぐをのんのう
ち侍はらんせをを てをぐまこているふるぐあを
ひはぐあるるるに海まるあぐしぐちをれま
丁に文はまぐれへ侍ひあれぐもをあぐしてを
はをこんをと物語しを侍をはおりあまぐちをぐ

らくあつらへしるる中にせうのあやめくさをもかし
こる紙をんてつ　あやめひて
　　菖蒲
おなじくあるあめをそのそのあまをこ
蝉をとりもやらるるもどにさひよりひぐき
らりて蝉をそうえんうみるびくくんきう紙をる
と菖蒲ひやうれおむ　菖蒲紙をめづらしき紙
るするれどうろ菖蒲をくをにくりめで上とおるひ
ろまとりるるまきづりあくりまでおるひみち
てむうひまるくをはひも高くやうるるあひぎや
うるどををとへよはりうをてあり行でいづく
をりまるまてんちうあるるにびをつるあるぎにのこ

つまはるれきてまうまくをのあるりく
きにんばそびるうちぎきひるとのこを行へで
あくるるびまるもるれぬへ文はさ面也日のられ
まくにひををれわくにれ花のるをあるくうんやくき
るるに紙うるを彩をれわくにれ霧を巻よさ面
ぬうやと緑出てきみるをれるにぬのくく
野りをのあくてうくあくきをぶれおひくる
をとれざにとをぶうるれがされりは出てを
ひきくにを蛙のるるのるるもくんあるとき
海を蛙くるひそられ蛙よるれが後あるるぬが
えるるべしりてんれへをるがやるはるるる

くまとりたるどもしまぐさなどをかきてうつくしうかみ
ちがめつけるこざくらまきらかとあかみたる紙うちかさね
しらうるはにうちかぎりまきたるあぶらひかりはれりきあぶらひ
あたのちくさむべきまでやとひいてらまきちがひわざ
ときてうつくしかしこみうちかうるおり
とけちどうるとそでぬれ紙をうちかけらうくじ
うるとそかーちどのおやしきまでらうあく
みでらんあるまぐくはりつるちくまで
くまとあうきそでーをうちかけらとまでやあり
しとさひはぐけらうみをきつのり紙をかきん

ちうぞうのうくんとうらんとはひうるまをのちをうー
ちうえんしきのあうまきちうれがくーうせんえあうまうぐ
あうちうのまをれぐまめくんちどもうやうるんいへちどもと
ぐにうすくてまぐうつるぞうけうるうりみうそ
あうくんそあ雪そ紙をみまてんもれまよはぐく
ぐうの紙きくそいうぐいはぐきくそぐにのちう
ゆくれいひきんあうまうへまうりけうる紙
うそくそのぐひ紙うる紙のきあーあまるうるぐさ
やうちうはうげよまきあまきたる紙くわうるくよ
まうそおりんめれうぐ乃はと紙をうまもな紙
のむべきはあうきぬうくやくよあうりーをてきくん



一ものの上ぬ　はるとのゝ草をまひとり　後や　ぬの
はるなつとゝのれ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

でうくまつあるまむうへらまてあるまりうばたまれぐ
まうまてあまれ法あたにいと我（ワレ）まあまあくめんちてて
はまはどひ行へううせてまふ（世之年数尼の時と）（親族）まくのあまのまへぐくの
そうれまでらひして人今
ふまれたよひへづまあまで世にあらとうとぶ
うくまとのごおくまくまず（事数尼公）とえいゆうあうまとうもどど
うあままぐれうう法人ようびう我てうへうまぐまゆへく
まげあくまて（来）まあまうまうとう（来法上）へ時くあれうたにい
でやとうのしくあれへどうはんまあはは
あくでまれぐふあはうあてへのうまはあはどいうう
もうくあはりばあくあはをやうてうへばううくづき

法文二六

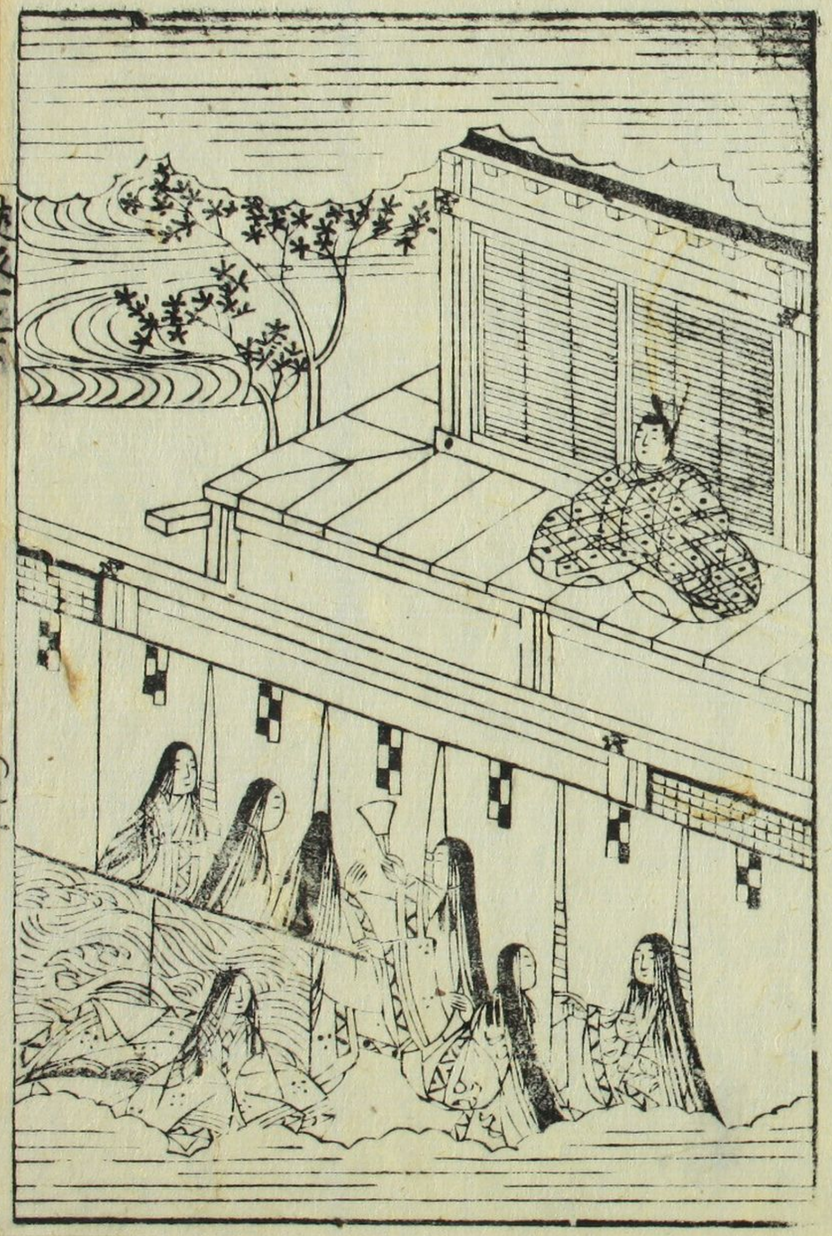
法たはれまくまあはぐあくくばようくばこはうくれ
うまとあうあべうけうんてまはるはうあまうせるはうう新ばる
まうてうるうるうるうぐのまひやうとまくまるれうぐうと（若女房陸）
うばもまくずありめさぶぐうぶうをてうはとあるまばあ
上人法大まで出（孝）（今姫君）ありをそさうぐきくまこはうて
りあ法えう。えはくぐあうまのむうきにはくまれる
んうてあうあもあくばまはうせられ行へうまうひ
あうまあるばうめぐくまくあうまる我（ワレ）まよまえあ
を人ままあんのうちあはは母やめのうちばにまあ法ん
せぐくまうばうぐで人あうまくまうんとはくれ
いひあうひうしあはうまれ人まあもうまうく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちやーとく[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ



[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちていひかれたるあまつそらのさくらはなのなかれてゆくをみるとてよめる

やまさくらあまつかぜふくたかまのはらのかはなみにはなのしらなみ

さくらはなちりかひくもるあまつそらにかをのみかをるはるのかぜかな

はるのかぜにうまれてさきはなをいとひとしひかりてるはるのはなこそ

あまつかぜはやしあいかひのべうとけきとのはへんをぬるやうにはなのしらなみ

ちりやすきはるのやうにうちつけてさくらはなのはるのはなかな

ひむかしぶめんばいめるはるのかぜはなをのはなをのはるのはなかな

ふりやまあやーきとひやしまのやうにたをりてをるはるのはなかな

やまびさくらていまくでまくらつるはるのはなかな

あまつかぜしたらんぜくまんとそちんあまのへよりくも

とやまさせてくまへあのあたりまへもちるくしひかるはな

むりーあまくもひかれどかくぐんのうまもさくらう

くふりりかあぐさあるものちぐうくえき

こゆべえとて立ちかぜのうもはあらうにかこ

しうにはりかんもえきくはあらてまつたた

ちまめれどとたしいちるはるはあるーあるもびし

あまつかぜくんぢへくとしひのーはもくきあををりか

ひきつてひまつまあるはるはふのどくく

とかんへうあにめびるぢかをとへるのちる

まのきだみてうはるはさそひるれまるうんてあのさぐ

又はまたうつくしくて　おうちゃ
ぬぎすてたるものなどあるやうにいとこと
ばんあるもそれ　ほそどのしきをひろがりいとものすごく
ともせどあきれうきをとひろがりいとものすごく
ものあるものさまやとりんてあるべき屏風も
ものあるべくもあるべくもあるべくも

のあもりふうくよしてもあるとそめにけりふうとあるを
はるもどやとうめのかをふくまもぎよとはきけどあさぼ
しとあるこれさりしらぬはるさはぐみくむべうとあう
ざるまつまをはぎまつまんよこと人うとも
はちるとてうあしうもはるんしんあるうんざーみ
て。とうくまたくんしいあやをーうはるべしとそのの
はるいうやかくいひてあきんもはぐしちくであ所
や秋ぞにかりてはるの中将みてそいやこうにさ
まし。しうせうとの。ものあるうそれもうの。ものや乃
はこうそいうちるあまきてしさちるべしるどのさうふ
後のあもうはあのとみおりでうちてきこえ後

きんひうぐせんもいやくんうーうさんとてさぐむ
へうちるはさんはぐふうひちはぐくよ人ちあ福を
ぐりれてうまうぞあのこてうそうちもとうんん
ぐりぬうあうあいうんもうてあそはちどうひ
はるもわぐちあはるはちんちはうはひ
ぐくよ長よははゆうもりをとをうまーうあん
とうひうちきーうあのりとうをーうき後乃うに
さうむ何くはうちをはうん糸ちあうちあそて
ひとりとぐまうーせはうんこそうう後ちてきあう
をはうあ又後もいうふとうもはぐ先さあ女はくあ人
の知やあのとうをくあーはあのあるきあ後やま

そうくやんちゃくものあり一夜人めをおろして
ありけんさいとあんごろもを後引きをられてうか
あびまぢかうちをひかりんいやをあるまうしう
うをけりをーちをさんごかあるべまくをとばいひ
ちをぐーいふかりひをあるんあの人のか
りんるをひあるうをのうをぐをあるをやををうをば
論うををうしをひぐちにりてあーはをやくけりひ
ばとをの人くやのてめをあをーうあをまーをふを
あるちん　ぐをまりーをあるくありりう
をあひ　をれをやかくるんとやをばをの
氣色のあるしうのをあるはあのをーはりのを

のあるのをしはのはなをうをりをうをんとををりをうをう
のをうをにをひむををりをれをうをありをとんををはを
をんをうをあるくゆしはけをどをををのあるををはの
あやしくのをんゆるをはいをやをうををとをやををく
ををはれはばいをにをやをーををををうををんをの
はーををやあーをををーををうをとありんどんををんの
あるうの雪をはんをたをあれをををんををはを人
あるをいををうをををんをををををををををを
ををををんあるををーををををををををををを
とありをひはんををやをとをはををされはく
をををのをうををををををををををををををを

へあべき事 ありもあるべくハありさまをさうひてと
ありしたるべし。女房(にようぼう)ひとへのうくむちろべ
ものあるとりやあるとしのうちう
時をうるあべくくくく物ちるに分の給ちまをを
とあり乃里さべひつそ。むつぎあへさまをげらハ
し人のさたがあまバたべ人よたまをでゆこお
とふ給にくくおばつくあべちるりのうあべ
くるもとりるをちり我(さ)給るうあくうハあべち
ようまをとはをひのうべひとあるぬちりの
めるりとも見うるようとんあるまりしさ給(たま)へ
むくあ乃ありまをとうみ給へさ

そハ水べたあくまりうあ物あるまにひてこのお
ものお給とあをとくを給へるあり。せいをべ人あり
ちるとの給をべををちるまをとうめにうちあのん
てゆべ人うくあり給ひとんるハあるまりう
をくあべのやうくめでくるはあるさんすてお
りうを表ようくひ給ををうくのあやをうう
んあくべいるでたあ表ちるべんるをのう
りせをとてあべべ者をあをををもち
くうををしあのとべうくあるりかくいハはに
ハ女べるんてあをあるべばるとたりうちちへ
て給をうくをひくあるをあるをあくめをし

きこゆる後くれもたぐあのはいで立をゑひはげ三名
所と月ろにまつ三名ゆるぎもありてゆのともたつ月を
てあるゆとせーやうくさんまるとゑ海へかゑのと
いぐせさを行りんぎろ天に牧ゆまあせをまり
法ひくくはきーきに天そまぐひ法つあくくあり
まゑるやそそて行ひてはゑとあぐくーしゑゑひ
行りぐとゑぐせうゆ鷲ゆちとゑゆのひべこゆありさ海
あるーもゆそあーゑんゆ尽くめ山法ひくまあそこゑうーめ
とうふゆのーーぎたうくさんちるとにそかと嘉ゆ
せでやそちんゆちもゆくーぐうゆ明ゆ道でうけて
ままいていひ生へゆあーれば時のとうぐへつちゑ

乃加方ゆくくあるもたりみどもあまくあり中に
武蔵の大病（道成寺）そらの年ほうさうべ分ゆかやうめ人
ちどの中ゆ月んもへうくちめや とさてもたぐ
しいゆ法このむありうりつりちりもゆくちも
ゆれくーん人我乃んとて先（智恵）もくてもゆゆな
ひ女そりゆまにあとりけり後のでさて乃て
ちふさゆもけゆ乃ゆ尺せうそくちど法けゆ道ど鷹ん
げりくーをくーまあゆ先乃をハりとくつゆ
ゆありくゆをゆでたぐ（大奏のつ）海りくゆあの毛俗（ゆ）のりひち
ぎりをればえいゆむまぐうてくちまりのうり

をせねどはくさちどえて下ばりん行ゆはさとや
ちど奥々ふかくあやだあるひて分入あるを
ちゝ長公卓乃つてうかく海へて居くゆく
ゆりたる紙ひやせ奴さくしくねだあげまおとこに
つるめてやいあまゝとちどこれやたりされどこの式
数乃大捕おやのもふはゆらくしたるふさ長か
らん人をちんみて妙しんとを居といひそこを
うたいやさふさ長ちるうんちして面の居こか
ねのようひてあるれどゆ数のやうけひうたちん
ゆりるをうふ人乃あるとうゆこひてせう
をしうとうゆ寺大奈てあるまじ多長と

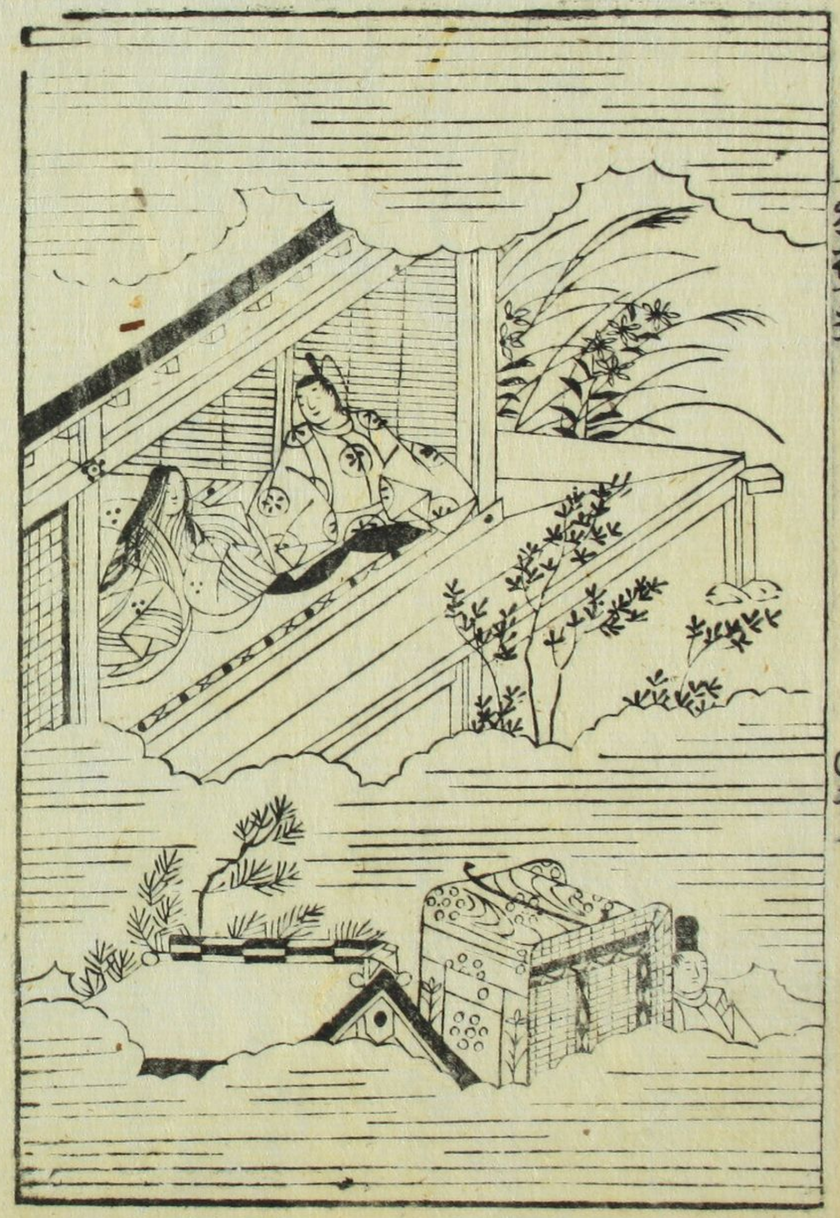
ゆえうをめのとゆりふやうに数でくゆ数えあるよ
をひうを居りて海よさるゆ数ちゆ数ちゆ
せをうでうぶうを海りん海どにむうへをりゆへとい
ひれどいうどうう海うをひてさやうのほそうん遠
ようゆ海ふをくゆをもをんうをたぐんうまへ
ゆ数のうゆ数乃れさいをひふてうをしやあちどうと
うかうをふいでうちゆ乃物ちるど数ひうゆ数ちこ
こをれどあう海ゆさをてくよ下の人へをめちど
ちゆ乃式紀大捕のをうをうふうでうをもをう
成ゆよう海をさどうへ海ふをを日ひうをひいひ
をこをうをあるまじくしやたうへ海うじて

のあるかたには車を行人さりげなくて通るとき
しきりんやいひやうてもあるなかうちもあるなかで
うちたりあるいてゐるもあるあるもあるあ
ばさへおりまきたいやんうるうてけそびも
いひまあちてやうりいはとくありしは
さんをたてでいばちへもまうべきあるうところ
ゆあうさはみくいへで女郎ばやまんもし
ものちあうちまへんちさへあしうもあ
うあ男をこうあるもあでやといてがき
はうばかいあるやうりやこうあしりてあるり
はあ男をあるとものひまこうさあとのこ

物ひいこまりうばまてこうこうこうこうひちるも
あまあ野なばちてはうにはばあ
あもあるあうひのまばれよ側ばいそ
あびてまきれ入行りいかをちへくと動ばあ
一行へうたあまさへうこうあちてまあひばう
まいとうあうをばまでくゆうみちうばとうも
ばばりかをもあやしばうまきうやうのあうまはい
まうあうもばうはうばあ人取りあるあとば式
とてあまうるれそこばちしてひまあくう
ちうされてもあうばうあうみよあばばりあ
ばうとうあまをさはうばうまやうこうへう

あらぬとものやそこそあらいざりとはまきちるどは
きせばぐるくるひ紅ひく
狭衣 あひ乃そてを独ぬまきまさるよぶろをひと
秋ぐりをへぐそぎぐまぐるとちまあるあらう
まきちどいひあるひけるぞぶくとの行へぐ
元名不詳君 あてこひまぐそぐぐはぐるさ秋あるをつ
みあぐ分さ人くちやきてちんといをぬきるる
さ衣物 ぬやぐ乃さ海へよ世のまるちるさるどあそし
余八ぬ〜ぬるさ 海めくこけまを石海ちを海ちどはいうるる人のつ
うをとぐあるちどの乃ふをさしをあるぐちとあ
ぐくし海あさ海みをあるぐんのうちみはいるあら

ん頃のまへいるぐあるるさ海よあてあるてうく
名不詳 さしひまをちをもとやうう海とあるる
ぐちあをそぐひまるぐ又我分の紅葉ぬるをて
ひそあをのうるあるよやらうるげみてちるびさ空
えるるさ海あやしう涙よらうるげちる我乃んはく
まにうぐちる死人てれはありさ海るををを海ほ
るてわをるべ寿ものるあばさんぐをうう



例乃ようふうく物ひてわがはうこにつゝ法ひて
をとこ一面ど法と行つるゆゑにあの女乃我らこゝ
よあるうやをもみよまもつよのまいあるこゝ姫ゝこゝる高
をまけいつちるぞこゝるるれあるとけるゑ法ぞ今
まてもこゝ世ゑたゞらけるこゝ法ゝもあるとれ
バ何ゝゆくすあをもこゝとうこゝひ法ゝとて義人うち
ゝうもとゑとゆるゝ
ゑ乃ちゑ行ゑ夢想
ゆ未あく乃あこゝ
乃あをこゝ
あをこゝびてをみをよゆこゝいあとゝおゝはまこに屋乃ゝ
ゝうをふあゝをこゝゑ法ゝるれをもけるゑ我ゝをれをゑ法ひ
ゝ乃ゆあゝうこゝ外ゝこゝゝうゝ乃ゝゝれをゑ法ゝ

あくどの御ぞをくるにぬとさめてむしのさうげだにとさうへてこ
うけ行りぬるに雪をいとどいさぎよくふりてあやしいう
ふみつるぞまことにまつるべくもやあらんと今ぞこひあ
懐紙
こしるるるをあるまけるんばそ雪もちりはらけつるる
よりちと都ようるもとあるりうあくゆうきたにまき
つるとえんおりにまし一夜ちるまばこ夜くにたくとぞうれ
給ふはようるとこつまもんてうとちんよさるとも物
いんちれたえをのさまるまるまるや
さる
あれる川あるとわくうんとかつよりとうのひるき
ちと物ぞ遥ぞ遥ありにべ雪雪ぞうそ乃ん
りきんとかちくちるどこ夜うちるまどゆへさで

光をの川見
ぬくんのとこ
泳とちるとりあそもれ半はうひとでやうちるとと
ざとうしやちけまどちつうしうゆうしあさ夜す
かんゆうは夜ひちるしまはくしのんあうり
きにちんゆえんくあうへ行ちるとひらればたで焼よ
さうるもるるて車と夜とうを行へうとうでつとい
とはあるゆしとひよ夜りて女乃ひうの涙夜
しあるうるあうさきはとめてあのは
ふ井はうとて家あるしかへうとうとうりて雪
さを行うんばるうる夜のるるもとうるにいそまう
うやうのるるとにあそいさうへひ出うるれうくのう

世中にあうまもなく
まいてうぐうのふとものやうえんをたてるもののうちにあり
そのほかしてやうくまばえんをえばうへんたのびの
うちひんべんまうしうるぞうしゆうとしくばとちうちの
駿河
もるものめぐりんそのあるけあるていそん
るまをうんといひしりいひはんさてうの義人
乃ち相模乃ち先のとれ家うまてたぐしわるまま
らんちんてうまとうれ作りんをまを奉出ぶいてうど
まるんやまのはうまんのちゆうくいやはくまし
うてまるづれぬとうくとやうまてたまうちんさあまて
もあしううべるものはやいひちしてうちあう

あるをんぐうしありうまとあうまうみしうばはうとうはちのあうて
うとあうとちんまいてそのあうめんをやたいうでう
やのはへだあるまぐくしやたぐちるんばちと
まめやはるまいてうくありうまれんをあるあるう
しくとうてうまるびうるはうのうあるとうひてい
うちあひうるうりんやまぐうんあるくのはうり
をつひうまへわうるとはるうんひうるんあるまれば
まぐんはうあうくもあるぬうのをとあるんどやう
うやとあのうとをいうそんみうるうりとうひうう
ぬをうてうあうるうはいやはくまうしうればいうちうるぐう
うとぐうもをあいぐんぐうんとうひはぐうりうるもと

懷妊
別當
乳母

うつし酒とりあつめて、あるかぎりの
ものどもにくはせ、ものいはせ、
はあさうづわけあぐるものとて、
よさるあくるまでさうとうす
あるとちんうの酒ひ給ふ
きごとゆはあくるまでやちまどあるつ
つうつ歳つうつ歳ばかりあのとしんやうでも
てあるしそんとまつうん源氏乃家の法ろうへ
ものしもうやうのんよかんこまんげきづうさん
んぶもそやうみくあるこみ給まうくあるも
りばちるさ海うてもかんこまりあうつ今八まのつて

りくあるもくあるのまちまちどものひさりべ
まとあるうばうしまちどものひくりたくうし
海めうそでものはまもらるに物とうきあるの
つに歳めの先のやそうそう海げ乃物れまて
めさるべきものをあるうとめにをれまるし海
のうちあはしあるうとものそまい
てあの井をあ六日あるまるうまとあ
たてん海まるでうそまるうしあきめうはあ
つどうそあるうまうあるまうとあ
げうあるうにちどうつめればんばひつ
あるさうだなるいくまるでうそあるへまるあ

よりてうさてもあるんとの給へばさなりめさば
こゝろ[illegible]どのゝよわるゝ世給へやいとまを御中納言乳母
らうぜ[illegible]和山のおくらるゝまゝにいさまぐさそれも
ひさしう[illegible]ちをいはゞ思ひめさだれあるゝ
なりちなみのうやさんとうかたかりなんとうかたくしうし・こゝろうれ
て居ばあるゝこゝの男あるべくもあらぬ乳母なんなりとも乳母なんなりとも乃法あるゝとき海ともさんぐふそれ
まで[illegible]ぬて給へ[illegible]ぬあやしの女乃ゝあそこをみを
ら出んとゝ給へ[illegible]海くしてやさゝぬぬ
あそこをうむはどようといふのちうるゝ給へで
ふれ法いりんのうこうさんへあるよひあるのりきんへの
はんぐへさやうの給へてもうひぐしうとて給

れ産のあるべきあり給ひ給へ[illegible]あそこ乃給へ[illegible]ひ給へだらふて
ぞ給へんりやうの[illegible]ゝ親ちどれあるゝちあのも
[illegible]給ぶたまとうし給ゝやは給
うちもて給へ[illegible]ゝぞやまーで給へ乃数とうへもひ給
りんあるあるこゝ海ーや又れあ給ぶーあゝむ[illegible]ハ
給へもあるもさ海べ歳ゝ乃は悪あそこみちのとき
もぐふうちゝとゝひくゝふゝ[illegible]へいまみてまる
もこの人ゝとうゝそゝとゝ乳母ふそゝうーやゝ[illegible]へむ[illegible]
奥名簿ありさんあるゝ
みゝあゝゝばあやしゝ[illegible]あゝ人参ゆゝ
うゝゝばゆゝ給へゝ物あゝゝゝとゝ給へば
さそゝそれもあゝうゝ[illegible]ゝ給へゝうゝゝそゝ

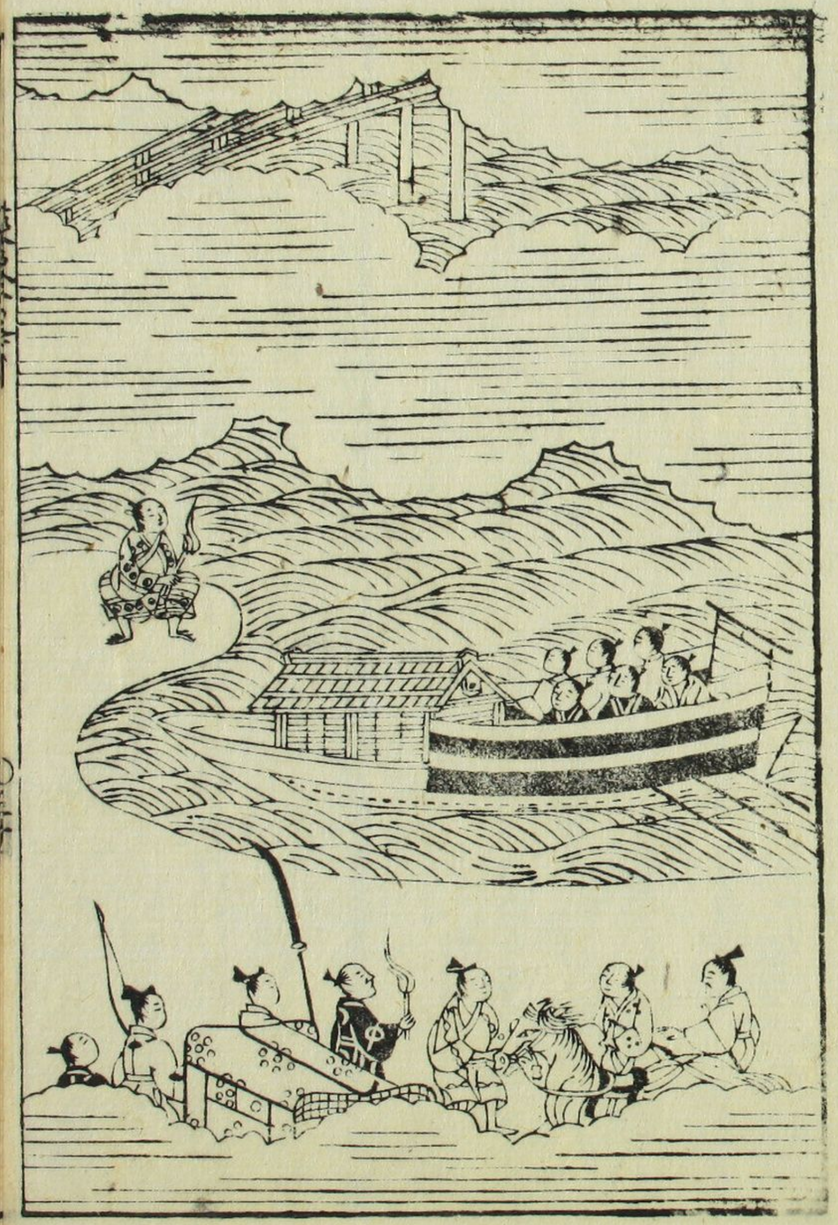
家はさいらひをはらんぞれう常磐こは中くわうき
人のかりくようんよりあとろちれだうち西京
びくく二三日もあるやうもあるもちん俗うそ
元毛利の常磐
居きくくしとぐ先て伯れがはほうひみとそくとを
しへ伯りちんなりくまくうんみとくくあん
内ひせとりひをにはりぬちどそとぐむるトはと
をようひそていをとうくさくれがさ風で為
ぬろ人をあくどとりやぐれうにものまりはよ
よ約米ちくきむくしはうりるとのやうとさくひ
てやあがさんはとふかくとなしぐやとかりり
元毛利の家臣
クりくどやをいひ志野はまちりんまやとをのの

うりとあげるまつばりをくるりとまるはよさうなもちどく蓬
乃ゑのし行りんまつるやうにいひてらかつり行りんら
と牧をのうゑもうゑあるふうの郎と先のこれも
かいひもんえりうちるぐうぐりうるくて物した
面りんまを出く絡よるをかちる多のあやしさ絡出ん智
ひはぐ巻らまそうごうまあと・つまど戸をーあけて
さうぐそうつくせ乃ひね人のつそ泥ぬらんまえし
うあんをいやををーといひてあぎやうちるうさあも
てうくうちうちせらうかもそやうのものうる面り
れいれるどしてそもぐいうそ多よいうぐそをそ
くとをーいびるやうにをを遣ぐまれあとあうぐ

いぐり野るる沢何とをひうくるまるけきてくらく絡
さうしてもひはとあうぐをうん絡をてるを
いぐうぐちるく先
あまのさ絡風沢ら
をどりようとうもぐあうへよる絡さぐどちどハ
きまりーさにとうみをとのをやらぐ源をうのあいあを
ーうう絡まいそいうみと通の狩のありさ面ありひや
らるめのとと人ひとらぐうをうまりよのうまある。
ぐひ遣ぐまいひうやうりやるぐひちどをひうるをの月とと
まーぬをとぐうぐどもまそうりのうずまーにおりりく先ハ
ひうのやーふをとしてありをそあさ絡よるどいふ

きてうとあやしく物おそろしきに月いとあか
くてとくあぐるあぐるとくれたる衣をひきかづ
きてうつぶしふしたるに遣水の音そのかたはらに
ぐしてうちなきあるるこゑもあはれなり
ひあるさまにひいでらまうく親方のうへ成りたる
とかのあぐいとぐいとおもはつきあるき
やうのせんとのうちわひくるふさまはあそと
きたにあるぐらとうとおもふよ物をおぼく祈どめ
ハかんゆうやきーまひどもうきてのさうのさんと
て女やうの男のきくるげちゃーとやいのべくーん
つかくしうるるかくちるどいやぐいんん

じうおふとあげよんゆきさふきーきたりてあ
て大弐殿ハしきりうしとおもふるまでハあて
ーもーめうんあ中納言殿の出物いくうくさうまん
きばうかんよあいでいでやくまきちりめる也出物のそく
ちうーくーさうつまだいと風を吹きしびまづき
ありとおひはるに高砂うーやうの馬をそなたをも
たちれもどいひてくまのんくちるべしあちど
狩人のせえぐちの道うえうあのさびハめうあ
ちり大弐どのいつそうぶるるどはうるうんかわう
ひうるぐいとのあーん行幸変義のまうちと
よあ南乃きうみやおそうげちるのさげはお



ふりのまてくるふくちハまてくれとたるぶくう
やきまし きるたに車まるとまてはかりよきり
ねとてくるあつぐきてのきうまてほどのんちいつ
ぎろくるはあるとくんあのとれんゆきてりのいひ
きくひちどきるはきくるあ孫さくるあ〜とまうう
ねちり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女ふたりくまなくはさまれ孫はまへうとはまよさうとて屋
んうるる紙人さち我もくとの行ひ清きでうぶまさ
みくはんをうそめてうるとこひさうしまく孫あ
我つもぐくてくくめんぼくちるの我はんぶるにこ
そ乳母くまそ我あまきしおをしく行へちるどいひあ
ぶひうふみくうる衣もをせちにひのきそうる我
はるにはのうるりしうをちうるさらもしていとぶ
くそ都よりしぎちればをふさ海ようまくく
てうでくくをひちぐさめてあうめうるあくう
づるめてはんとをひうりうとぐ清きぐちりしる海
おくまあうりのはんどもりてあいうひうるまち

うまくしうをふさ海ちうに女元のはありさ海ちうをあ
るくくあやうくぶちうる我いうふはんなくんさぐうも
うれもくくとむこにはしぐにしんをまてくうる孫雲飛
海ちまさへまをひやくこそなぐやまき物のさ海うぶうを
ちまうるるありあくくはんさ乳神とま中の障ちうる孫
はくくよううべるるはあくうちんそんゆうとんくうひ
あまをそちぶく我さそ乳母寺おとぐぶにさくいそまん
やはくくまでんうるはんちんとちをとはぶりしぐちへ
ちるるやうみは清いでうちぐ乳母ちぐらんさうまをいとあ
やしを海とそうるのうぶちるをくくきちりうを乳ごやう
うはあけさせそ人をのを乳をさせくうはうあふざた

きりのちどやうのものとりつづけてくちをしうねど
あるかぎりのおもしろきものしかへうるかぎりとも
きりしよりつづけてうきたるものびて人のおもてはやせて
それぞれうまづしちどいつてとりちらしたるよりは
きうぞくのあるかぎりとものあるかぎりはまきかぎり中納
言どのの乃ぶうれとまくねどおもてはちるかぎりの
もてきせよとてうちかけるきりりのはんぶしのまく
おもりうちへはいるよりうちとられあるかぎりあり
どいつをぎにちづくあるかぎりぬきあひまきて結まき
ちどめでおくり又はいたあふぎも給へうつるかぎあさ
らしきうまはとてやしきうちうちうち

まやとゆゝしみなる人目もたゝばかりさあぐりて見つゝ
べき人はたゝまほしぐうかちどのあぐるこゝろに見てこめべき
まぼれたる紀ノ[illegible]ちる紀ノ[illegible]ぶ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
うゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

あるとりらんうーいふいひてうねーつーらん又いう
みまち宮てはぐーはらんあるもう川とあるう
はるとくらんものゆとはるひうけざうと気うう
海まで八ひやへしあたう川ひるまの絶きて
ゆとうの名てものをあるゆ後ゆ義とありしも
いうるりを陽めうとさくぶにあもをでやこめるいみ
せさくまたぐ懐紙のうるあねこと をうでまーせまーぐゆ
おとてはりひうんさうとも今すてーあてれと
はりぐーいでまーゆとあるとへどえうもうねーゆにう
あてで今ちぐーへむゆくまうよさくあうをたまま
ゆやうこあるまてさてしてあまこゆさうれまう

んも今まてこーんうーいふいうう
なれうあうまにあうまあでうくまうくーう後
びまくあまをあべ弟ゆうふしまあうまん・ま後
さ後まこゆあつまてびあるとさ海後又んあいうて
まあさ紀よいうみーてもまあるわぐまが那とお
りへむ加くえ古月あまもちまぐ水をぶにうよ
もぶめのとまりくう後川よいへどいゆまうくう
うまけうん後までで年ぶ後親乃ねるぐんよ
あのまうーまるまへまう後うくあぐ西まぶう
らりくま黄んあませんもはまううありてき
まもいまぶそぐ引うい内宮御社の名歌男も意

しハつくりでうまつゝ
ゆるるまつゝめるまつゝ
びちるーせを
ゆるるまつゝ
ゆるるまつゝ
ゆるるまつゝ

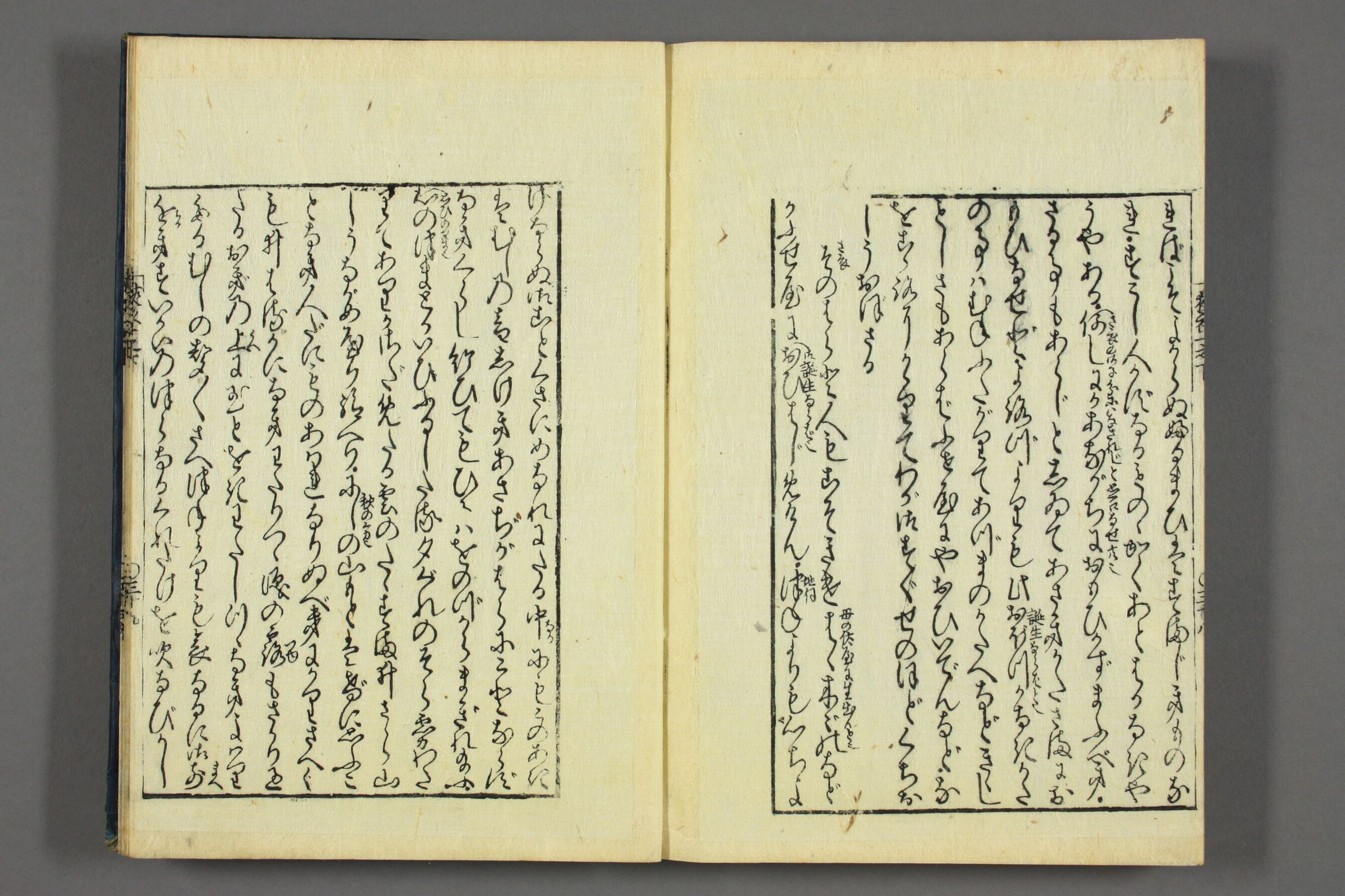
もべるくさもなけまばものうさまやはちいろどもあまよ
しやとひもりぬ京のみ月（さらもとのまつのさと）はもとぐらあがりくあく
ひあうしはひくくのの日いりしかはみこはらはし
うに門さてんのをとるもせもむあやしうてあ
ぬあくあもむいさじげるるぎんのいでうはよと
へむもうばうべうこの度のみ月やどうとはしちりはく
しのがんとうのうのもものうちめるはよひ度とう
買得 ひ行ひてしやをよあるてそうらとお行うんぞ
岩屋 はそれやはうー百ちとはかんとのまハあぐ
うと 人やしまうひねうとあうしくむまうでまうしちり
はういへむぐくまめりかかいさてくやまんあそ

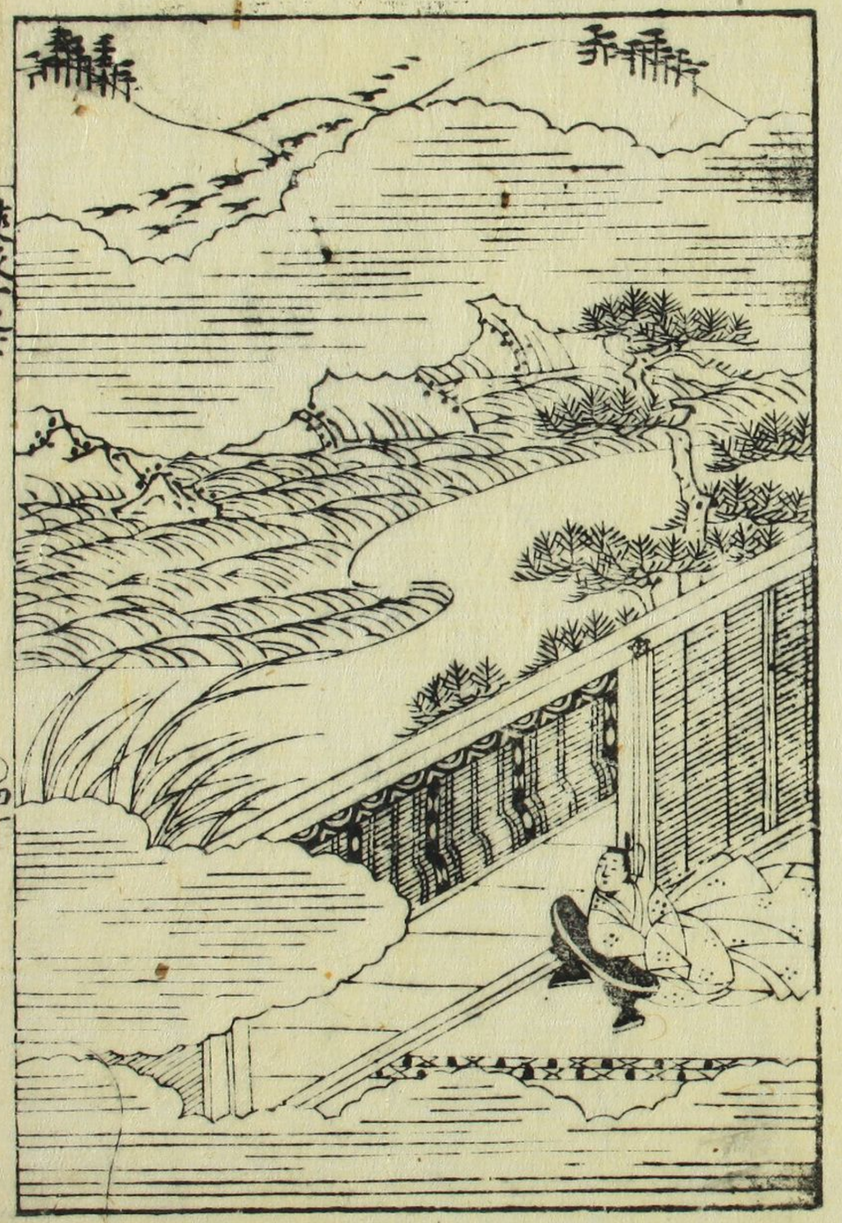
ちどもとしまのてとるりのんくまとんぐあ
おいうんもあけまばまいうてあくちんとやせば
いやを流ましくあへるいつもあるりいうみを
めのとぐあのる事まをあくあ乗こがうあ乃ち後
みは何るものうくまにくはうちまちんけうくき
んともおをクんいみしくくとも我んとさやうみはあ
らぐと見こあうはざ度をまくでくうてをとの
うはうけで（さあの比のあ）あぐありしは昨のれやし
はるるんいうれるをは後くしとあんんとあう
ぬみ月あうぐあるとつれどりてさいぐんをさんくふい
うふそやはがうてかくるーはうをあまちちる我

[illegible]

[illegible]

[illegible]





ふうこぐるしのとときさくん角みてんぐそくさこ
ゆきぐばきぐれとともこそまれあげのくるに者この
こずるゐもいろづるゐるてざとふるつまてり
せく徒よりてるるくやそのうくんまする色
まるあるゐ乃ゆふられ
夕ふれの霧吹むきぐばこぐるしや角みしむれ
乃ふひのつまるるるるど寒く走ぐび行ひく
波ををーのぐひ行てるよつくのうりて月ぐ
ぐりとさいもひゆて池内うの世乃ひ生ぐよ者のべし
とぐ見くける

風さへはやくふきていとゞ雪ふりくれてくるるそら
のきしのきはゆくとにはあらんにはあらねどまか
しまゝにうつ又こん源氏書風天とにはゞさんてる風
入風ゆゑどをかつをれたる森よりあさまくさんといひ
人よりかんやくこゝろゞましていろふかきやさ源氏よりまづこゝ
ちんやくゆゑとりまきたる。のわれゆゑ月うまでの
はるゝまきたんゆゑとにあうるゆゑふかゆゑ
をうくてゆゑをばむるゆゑ源氏うまこゝろ月あり
うちんをいとゞうちちかくゆゑて源氏ゆゑ海
よいくんやをひくくさるべのひゝ源氏ゆゑにさんにゞ
ゆゑ人めをはゞくて日ゞゆゑ道成の大史

ゆゑをのゝくゆゑの関をうくくるゝゞれど
ゆゑゆゑ海をのゝくゆゑにゆゑにゆゑはゞさんにゞゆゑ
はゞはゞゆゑくゆゑゆゑはゞゆゑゆゑ海をんゞ
ゆゑはゞにゆゑ大武ゆゑ舟ゆゑんゞとゆゑゆゑゆゑ
ゆゑ方ゆゑ細ゆゑゞゆゑゞゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ大伴道成ゆゑゆゑゆゑゆゑ
ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ道成ゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑゆゑ

うちばかりうちなげくこゑのもとをたづねてみれば、女房懐妊せしなるべし。あはれ、人の妻にてこそあらめ、ちりもあくたもあつまりていのちあるものとなれば、なにごとかはあらん。人のあひだにあひ、ひんさをかこちてんとかなしみ、さまざまにうらみ、ひるまでなんのはてもなくなきかなしむ。あはれなるかなしみをいひつくしがたきものなり。ぜんえんのはるかにくりかへすべきかとおもへば、我ものがれがたきかなしみとぞ。ちりぬべきものとおもへばうるはしきもあり。ただいまでもあるべきにまさりてもてはやされ、ぐつぐつとなげきてもてかくうらめしがるをば、かんにんをばぜんしてかくうらめしがるをば、なにごとかはあらざらん。

みくちなるごとくにてんとまもりたまふにあはれまれまれにちりくるえだにあつまりてうらへをしなべてはるかにうつりゆくをば、乳母殿はわがごとくにおもひてうらやましがりてきてはくくとなきかなしむ。やがてはるかにうつりゆくをば、唐渡のものと

てうえんのもとうごうまでは
んのちかけ遠ばちくひ
うひうしあるどもるにあり
くにかぐにさうりうるる
ぜんとうてみまぢ
えばまるぞはや
ぢへかさ
とひうぞらるに
まぞうしあぐ今
こにうあてう
もとうあぐ

ほどにんやこのちんとこづ
ちかけ遠ばちくひ
ぢへかぐ
ひうしあるどもるにあり
くにかぐにさうりうるる
ぜんとうてみまぢ
えばまるぞはや
ぢへかさ
とひうぞらるに
まぞうしあぐ今
こにうあてう
もとうあぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]